



独立行政法人国立病院機構

南岡山医療センター 広報誌

2022年1月 Vol.40 冬号

# そよかぜ

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

TEL.086-482-1121

発行日/令和4年1月

発行所/独立行政法人国立病院機構  
南岡山医療センター

責任者/谷本 安

# 迎春

## 病院の理念

私たちは

「ゆるぎない信頼、心からの満足」  
をしていただける病院を目指します。

人としての尊厳を重視した上で

専門医療（国の定める政策医療）に誇りをもち、  
地域の皆様が安心して心身ともに癒される医療を  
受けていただけるよう、全力を尽くします。

## CONTENTS

年頭のご挨拶	2
消化器内科の紹介	3
令和3年度結核診療連携拠点病院研修会開催	3
睡眠時無呼吸検査のご案内	4
難病患者に対するコミュニケーション支援について	4
リハビリテーション科 作業療法士による取り組み	4
つくし園 つくし病棟 短期入所 合同作品展	5
活き息さわやかに過ごす会を開催しました	6
感染対策室での取り組み	6
栄養相談室から「備えて安心 冬の感染症対策」	7
外来診療担当医師一覧表	8

# 年頭のご挨拶

国立病院機構 南岡山医療センター  
院長 谷 本 安



令和4年を迎えるにあたり、当院の運営につきましては平素より皆様の格別のご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に追われた1年でしたが、ワクチン接種が進み、7月からは抗体カクテル療法も実施されるようになりました。そのため、重症化する患者様の減少と同時に、医療現場のストレスも随分減少していることを実感しております。本年も引き続き病院をあげて地域の皆様とともにCOVID-19

対策を十分に行いながら、地域の病院として果たすべき急性期・回復期の医療、国立病院機構がこれまで担ってきたセーフティネット系医療（重症心身障害、神経・筋難病）を維持していく所存です。

令和2年は、癌と診断され治療を受けた患者の数が前年より6万人少なかったことが、国立がん研究センターの調査で明らかになりました。全国863の医療機関における診療状況を集計した結果、新たに癌と診断され治療を受けた患者は7割の施設で前年よりも減少し、6万409人少なかったということです。癌の登録数は最初の緊急事態宣言が出た令和2年5月が最も少なく、特に男性では胃癌・大腸癌、女性では乳癌・胃癌の診断が減っていたようです。厚生労働省はコロナ禍で受診控えが影響したとみています。

当院ではこのような受診控え、検査や処置、療養指導の抑制や先延ばしをできるだけ起こさないように、様々な取り組みを行っています。上部消化管内視鏡検査の際に飛沫・エアロゾルを局所的に強力に吸引する機器を内視鏡検査室に導入し、安全な診療空間を作っています。同様の機器は耳鼻咽喉科診察・処置室にも設置しております。スペースの限られた空間でも、可変アームを用いることで飛沫・エアロゾル発生源への近接した吸引が可能であり、ネブライザー処置の際に役立っています。呼吸機能検査におきましては、陰圧ブースを設置しその中で検査を行うことにより、検査と検査の間の換気時間を確保するために生じていた検査抑制や先延ばしを解消しました。その他、気管支喘息やCOPDにおける吸入指導もアクリル板を効果的に活用して必要な患者様に必要なタイミングで行い、良好なコントロール状態の維持に努めています。



(内視鏡検査室の飛沫・エアロゾル吸引装置)



(陰圧ブース室での検査の風景)

冬季に発熱外来を受診される患者様に対しては、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの鑑別が最も重要ではありますが、ライノ・エンテロウイルス、アデノウイルス、RSウイルス、従来型コロナウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマ、クラミドフィラ・ニューモニエ、百日咳菌などの呼吸器感染症の病原体の検索も必要な場合が特に小児を中心にしばしばあります。当院の新型コロナウイルスPCR検査はこれらも同時検出できるパネル検査を当初より採用しており、約1時間で検査結果がわかりますので、またご紹介下さい。

「患者様に寄り添い支える」病院として地域の皆様や患者様から信頼と満足をいただけるよう引き続き取り組んでまいりますので、本年もご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

# 消化器内科の紹介

第一診療部長（消化器内科医長） 平野 淳

当院では主に上部・下部の消化管内視鏡検査および治療を行っております。

上部消化管内視鏡検査は、年間に約700例行っております。その大半は直径5mm程度の経鼻内視鏡を用いた検査であり、腫瘍性病変に対する組織検査やピロリ菌の有無についての検査を行っております。ご希望により鎮静剤を用いてさらに苦痛を少なくすることにも対応しております。一方、経口による内視鏡検査は、経鼻内視鏡を患者様のご希望により経口から挿入する場合に行っております。また、直径10mm程度の経口挿入用内視鏡によるポリープ切除・異物除去・止血術といった内視鏡的治療も行っております。

下部内視鏡検査は年間約300～350例行っており、鎮痛剤を用いて苦痛を少なくするよう心掛けております。原則、日帰りで検査を行っておりますが、ご高齢で自宅での前処置（検査前の食事・内服薬、下剤の服用）に不安のある場合などは、前日入院での検査にも対応しております。内視鏡検査にてポリープなどの腫瘍性病変の質的診断、炎症性腸疾患の診断、出血

に対する内視鏡的止血術等を行っております。ポリープ切除については、大きさ3～4mm程度のものは生検鉗子による組織検査の要領で切除し当日帰宅としておりますが、それ以上のものはご相談して入院が可能であれば同日切除してその後1泊入院して経過観察するなど安全に配慮しております。

昨年からは当院では人間ドックも開始しております。

ドックではオプションの検査として上部・下部消化管内視鏡検査もあり、その際検査に携わるようにしております。また、基本項目および内視鏡検査をはじめとするオプションの検査結果の説明、後日の報告書作成等も担当しております。

今後も地域の医療に貢献できるよう微力ではありますが尽力する所存であり、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 令和3年度結核診療連携拠点病院研修会開催

診療・業務支援顧問 河田 典子

当令和3年度の岡山県結核診療連携拠点病院研修会が、「新型コロナウイルス感染症流行下で結核を見逃さないために」をテーマとして、昨年度に引き続きオンライン形式で開催されました。結核の罹患率は長期的にも低下傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症流行下で結核患者の減少幅が従来より増大しており、全国的にも罹患率が10以下の低蔓延状態になると予想されます。しかしながら、この背景として、患者の受診控えに加え、医療機関や保健所の業務多忙による医療・健診体制への影響もあり、診断の遅れ、発見の遅れなどにつながる問題点も指摘されております。今回は、そうした状況を踏まえて、コロナ禍でいかにして結核を見落とさず迅速かつ的確に診断していくか、また感染対策やDOTSを効率的に行っていく上での課題について、講演並びにパネルディスカッションを企画いたしました。

まず、肺結核の診断のポイントとなる画像診断について、琉球大学感染症・呼吸器、消化器内科学の藤田次郎先生より「肺結核への画像診断アプローチ」と題して、胸部CTと肺の病理所見を中心に肺結核を診断するコツを豊富な臨床経験をもとにわかりやすくご講演いただきました。続いて、事前に岡山県下の保健所

と結核専門医療機関に対して行ったアンケートをもとに、コロナ禍での結核健診体制の現状やDOTSを行うにあたって浮かび上がってきた問題点を、保健所、医療機関がそれぞれの立場から各職種の取り組みを交えて報告を行いました。結核予防会結核研究所の永田容子先生からは、保健所業務や健診体制の全国的な状況に関して最新の情報提供をしていただき、コロナ禍でのDOTSを行うにあたっての的確で有益なアドバイスをいただきました。

今回の研修会には岡山県下の医療機関・社会福祉施設、保健所より300を超える多数の参加申し込みをいただきました。Web配信という形ではありましたが、より身近に結核についての知識や情報をお届けし日常の診療に役立つ研修会となれば幸いです。新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、また従来通りの研修会で皆様とお顔を合わせることができるとを祈念いたしております。



当院では、睡眠時無呼吸症候群（SAS：Sleep Apnea Syndrome）の検査を行っています。

睡眠時無呼吸症候群(すいみんじ むこきゅう しょうこうぐん)とは？

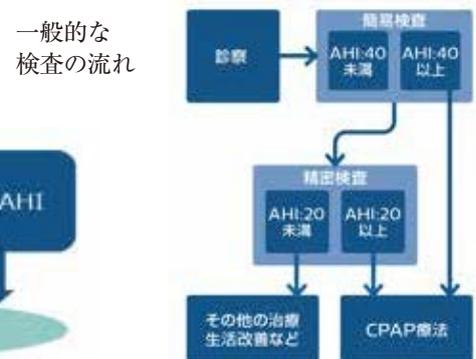
睡眠中に呼吸が止まる、または浅く・弱くなることにより日常生活にさまざまな障害や合併症を引き起こす疾患です。潜在患者は300～500万人とも言われています。

重症度はAHI：Apnea Hypopnea Index無呼吸低呼吸指数(1時間に10秒以上の無呼吸・低呼吸が発生する回数を示すもの)で表します。

\* AHIが5回以上かつ日中の眠気などの症状がある場合、または症状がなくてもAHI15回以上の場合にSASと診断され治療対象となります。



当院では、簡易検査とPSG（ポリソムグラフィー）を行っています。  
**簡易検査：火・金曜日**・・・ご自宅でも検査することが可能です  
**PSG検査：月・水・木曜日**・・・一泊入院で検査を行っています  
 (なお、今後は火曜日も検査を行えるよう現在準備中です)



## 難病患者に対するコミュニケーション支援について ～リハビリテーション科 作業療法士による取り組み～

リハビリテーション科  
 小林 理英

当院では、筋萎縮性側索硬化症や筋ジストロフィー等の神経筋疾患の患者様に対しコミュニケーション支援を行い、生活の質の向上を図っています。

### コミュニケーション支援とは

重度な身体障害があっても、会話による意思疎通だけでなく、患者様自身が、必要時にナースコールを押すことができたり、デジタル家電製品（テレビ、DVD機器など）の操作やパソコン、タブレット等での情報収集、発信を可能にする支援です。

### 支援方法

当院では、特殊なコミュニケーション機器等を数多く準備し、患者様の残存能力や生活に合わせたコミュニケーション支援を行なっています。

### 支援内容

当院では、特殊なコミュニケーション機器等を数多く準備し、患者様の残存能力や生活に合わせたコミュニケーション支援を行なっています。

#### リモコン

テレビのリモコン操作が自由に行えるように特殊スイッチを使用しています。



#### ナースコール

通常のナースコールが押せない方は、様々な特殊ナースコールで対応しています。



#### タブレット

スイッチを使用しタブレットを操作することも出来ます。余暇活動として音楽、動画を楽しむ患者様も多くおられます。

#### 透明文字盤

文字盤は会話が困難になった方が自身の意思を相手に伝える為に使用します。文字盤を顔の前に持っていく目の動きで言葉を読み取ります。

#### 意思伝達装置

パソコンに組み込まれたソフトを使用し、文書作成やインターネット操作、メール、テレビリモコン操作などを行っています。



# つくし園 つくし病棟 短期入所 合同作品展

つくし園 保育士 難波 貴志

南岡山医療センターでは、重症心身障害児者のための通所・入所・短期入所の福祉サービスを提供しています。重症心身障害とは、重度の知的障害と重度の身体障害が重複している方を言い、現在子どもから大人まで200名以上の方が、当院のいずれかのサービスをご利用されています。

その1つである通所施設つくし園では今年9月11日、12日に作品展の実施を計画していました。計画段階で入所施設であるつくし病棟と短期入所で制作していた作品も共に展示することになり、着々と準備と作品制作に取り組んでいました。が、緊急事態宣言が発令されたことにより、やむなく中止に。

残念なことに展示することは叶いませんでしたが、そのままお蔵入りはもったいない！ということで、今回そよかぜに投稿させて頂きました。それぞれの利用者さんが全力で仕上げた全30作品の中から一部を抜粋してお伝えします。

## ①つくし園【通所施設】

トップバッターはつくし園！「年賀状～モーモー丑年～」と「M-1グランプリ」の2作品です。「年賀状～モーモー丑年～」は2021年の年賀状の為に、主に月曜日の利用者さんで制作しました。丑の顔は指スタンプ、周りは折り紙を好きにちぎって飾りつけしました。「M-1グランプリ」は、木曜日の利用者さんで制作しました。お笑い好きなメンバーが多い木曜日。作品のテーマが決まってからは、小さなダンボール片に一生懸命色を塗り、約400個ものピースをがんばって塗りました。どちらの作品も約1年かけて制作した大作になります。



M-1グランプリ



年賀状～モーモー丑年～

## ②つくし病棟【入所施設】

つくし病棟からは計16作品がエントリー。その中から4作品をご紹介します。

まずはつくし1病棟から「大きな赤い魚たち」と「日本海」です。「大きな赤い魚たち」は一人一人の利用者さんから手型や足型を取り、一匹の大きな魚を表現しました。この大きな魚は夏の病棟行事でも大活躍したそうです。「日本海」は青い絵の具をふんだんに使用し、指先や筆など、それぞれの利用者さんができる方法で自由に描きました。荒々しい日本海のような力強さを感じられます。

つくし2病棟からは「For you」と「集水」をご紹介します。

「For you」はカタログを見るのが好きな利用者さんが、デコパージュに挑戦した作品。たくさんの切り抜きの中から、利用者さんが好むものを選んでもらい糊付けしていきました。美味しそうなのがたくさん載っていますね。「集水」は指絵の具をしたり両手で自由に伸ばしたり、絵の具1つを自由な作風で表現しました。某アニメ作品に似ていることから職員が手書きイラストを加えてみるとさらにそれっぽく！水の流れを表したかのような作品になりました。



大きな赤い魚たち



日本海



集水



For you

## ③短期入所

短期入所の利用期間中に、主に壁面などを制作し、それをエントリーしました。短期入所からは「花火」と「傘燦燦」の2作品をご紹介します。「花火」は野菜を育てるところから始めた作品です。

5月の中ごろに短期入所を利用した方と種をまき、その後水やりや追肥、7月頃に収穫体験を行いました。育てた野菜でスタンプし、夜の風景と相まって、とてもきれいな花火になりました。「傘燦燦」は雨の降る6月に作りました。雨の日の落ち込みがちな気分を吹き飛ばす、元気いっぱい傘で、短期入所を利用された方々も楽しんで見ておられます。



花火



傘燦燦

以上8点を紹介しました。実際にはこの3倍以上の数の作品が展示予定でした。各作品は写真に撮られ冊子としてまとめられていますので、他作品もご覧になりたい方はぜひ療育指導室までご連絡ください！

令和3年10月30日(土)爽やかな秋晴れの下、呼吸ケアチームによる研修会「活き息さわやかに過ごす会」が2年振りに開催されました。

毎年多くの患者さんとそのご家族、および近隣のケアマネジャーの方などにご参加いただいていた当研修会ですが、新型コロナウイルスの影響で昨年は中止となりました。今年は一時的に開催が危ぶまれましたが、規模を縮小し、また感染対策を行った上で開催でき、7名の患者さんにご家族の方に参加していただきました。

今年は「地域に向けた在宅呼吸ケア`コロナの時代を過ごすために`」というテーマで、リハビリ療法士・管理栄養士・看護師がそれぞれ講演を行いました。リハビリ療法士の講演では在宅で行える運動を皆で実践し、管理栄養士は毎日の食事で気を付けることについての講演を行いました。また看護師は、新型コロナウイルスとワクチンについてなど、新型コロナに関する



講演を行いました。

新型コロナの影響で以前よりも外出等の機会が減ってしまい、また先行きの見

えないことから多くの不安の声を耳にしますが、一人ひとりが出来ることを一つずつ行っていくこと、そして患者さんのお声を直接頂いたり、さまざまな職種の意見を一度に聞く事が出来るこのような研修会の場が大事だと改めて思いました。

ご参加くださった方々、また開催にあたってご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。来年の「活き息さわやかに過ごす会」では、例年のような活気溢れる会であって欲しいと心から願っています。

また、当チームが少しでも皆様の不安や疑問を減らせるような、患者さんに寄り添える存在であれば幸いです。何かお困りの事があれば、お気軽に医師や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、MSW等にお声掛けください。



当院の感染対策室は医師2名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名で構成されています。このメンバーで定期的に各部署（病棟、臨床検査室、リハビリテーション室、栄養管理室など）をラウンドし、環境が整理できているか、感染性医療廃棄物が正しく廃棄されているかなどを確認し改善を促しています。各病棟では感染対策委員が中心となり、正しい方法で手洗いができているか、手袋やエプロンの着脱ができているかを確認し評価しています。全職員を対象に開催している年に2回の感染対策研修では、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、一度に多人数の集合研修は出来ませんでした。少人数で回数を増やしたり、動画にしたりして、現在の感染症の状況や正しい

感染対策の方法、抗菌薬などについての講義を行いました。

感染対策室へは結核などの感染症、発熱や風邪症状があった場合の対応などについての相談が多くありますが、できるだけ早期に解決できるよう、感染対策室メンバーで情報共有しひとつずつ解決しています。

これからも、患者さんが安全に入院療養できるよう、また職員が健康で患者さんに良い医療が提供できるよう、感染予防対策に努めていきます。



# 栄養管理室から 備えて安心 冬の感染症対策

風邪やインフルエンザなど、感染症が流行する季節になってきました。手洗いやマスクなど基本的な感染対策を徹底することはもちろんですが、しっかりと体力をつけておくことも大切な予防になります。

これを食べると感染症に効く、と言うような栄養素はありませんがバランスのいい食事は感染症感染予防と、万一感染してしまっても重症化しにくい体づくりにつながります。

しかし、寒い朝に朝食の準備をしたり、昼食は仕事や家事で忙しいため手軽な食事になってしまったりと、毎日の生活でバランスの良い食事を続けるのはなかなか難しいものです。

普段の食生活を少し見直すことでしっかり予防し、備えをしておくことで万一感染症にかかっても安心して療養できるようになります。



## 感染症に負けない体を作るために、普段の食事を見直してみましょう！

### ① 3食食べる

一日3回、食事を食べていますか？一日の中でも朝食は特に重要です。一般的に夕食から朝食の時間が最も長く、眠っていた消化管を動かし体温を上昇させ、一日の活動に備えます。また脳で使われるエネルギーはブドウ糖のみですが、肝臓に蓄えられているブドウ糖は約12時間分しかありません。朝食を食べないと、前日夕食から昼食まで12時間以上の時間が経過し、脳にしっかりとエネルギー補給されず集中力が続かない状態が考えられます。朝食でブドウ糖をはじめとする様々な栄養素を補給し、良い一日のスタートにしましょう。

### ② 主食+主菜+副菜でバランスよく食べる

主食は炭水化物を多く含むご飯やパン、麺類などです。主菜は主にたんぱく質を使ったメイン料理を指し、肉類や魚介類、卵、大豆製品のおかずです。副菜はビタミンやミネラルを補給できる野菜や海藻類のおかずや果物を指します。この3つを揃えることで自然と偏りのない食事につながります。そうは言っても難しそう、と思われるかもしれませんが、改善例を紹介します。

改善前		改善後	
朝食	食パン コーヒー	→	食パン コーヒー ヨーグルト 果物 たんぱく質を多く含む乳製品をプラス。またビタミンを多く含む果物は朝食に最適。準備の簡単な冷凍果物でも良い。
昼食	うどん	→	卵とじ うどん たんぱく質をプラス。わかめやとろろ昆布など、海藻類を追加しても良い。
夕食	唐揚げ 弁当	→	幕の内弁当 貝だくさん 味噌汁 主菜が極端に多いものに注意。野菜が多いおかずをプラスするとバランスが良くなる。

食事や睡眠などに気を付けていても、風邪や感染症にかかってしまうこともあります。体調が悪くなってから買い物に出かけたり、食事の準備をするのは大変です。その時のために、自宅に準備しておく役立ちものをご紹介します。

#### ・経口補水液やスポーツドリンク

→高熱や食欲がない時、脱水にならないために水分補給がとても大切です。水分の吸収に優れた経口補水液やスポーツドリンクは糖分やミネラルも含んでおり、常備しておく安心です。スポーツドリンクは粉末を水に溶かすタイプにすると、収納スペースも取らず便利です。

#### ・レトルトのおかゆやおじや

→消化のよいおかゆやおじやはレトルトで常備しておく調理の手間も少なく便利です。

#### ・ゼリータイプや液体の栄養補助食品

→のどが痛い時や食欲のない時に少量でバランスよく栄養補給ができる、ゼリータイプや液体の補助食品があると安心です。

#### ・果物缶や冷凍果物

→免疫機能の維持に必要なビタミンを多く含む果物は、食欲がない時にも摂取しやすく長期間保存のできる缶詰や冷凍の果物をストックしておくといいでしょう。

これらの備えは災害時の備蓄品としても役立ちます。体調と備えを整えて、寒い季節を安心して乗り切りましょう。

## COOKING RECIPE

感染症にかかってしまった時に簡単に作れるレシピを紹介します。調理時間は全部で5分程度です。

#### 材料(1人分)

トマトジュース缶  
1本200ml  
・ごはん 150g  
・卵 1個  
・コンソメ 1/2個  
・チーズ 5g

#### 作り方

- ① トマトジュースをお鍋に入れ火にかける。ふつふつと温まったら、炊いたご飯を入れ軽く混ぜる。
- ② コンソメを入れ溶かしたら、卵を入れて蓋をして約3分程度加熱する。
- ③ 器に盛り付けお好みでチーズをかけて完成。

エネルギー：397kcal たんぱく質：14.6g 塩分：1.6g

## トマトジュースリゾット

野菜をプラスすると1品でも栄養バランスが良くなります。

例  
ナス  
ミックスベジタブル  
ブロッコリー  
ほうれん草など





みなみ君

# 外来診療担当医師一覧表



独立行政法人国立病院機構  
南岡山医療センター

TEL 086-482-1121 (代表)  
(病診連携室直通) 086-482-3031  
(病診連携室FAX) 086-482-3051

休診日：土・日・祝日  
年末年始(12/29~1/3)

但し、急患の方はこの限りではありません。

受付時間 8:30~11:30 (予約外の方)  
8:30~予約時間 (予約の方)

診療科	診療時間	月	火	水	木	金	
一般内科	初診・再診	8:45~12:00	木村 五郎	藤原 努	石賀 充典	下西 惇	藤井 誠
	再診		-	-	藤原 努	-	-
生活習慣病外来 循環器内科	初診・再診	8:45~12:00	富田 純子	-	-	富田 純子	富田 純子
呼吸器内科	初診・再診	8:45~12:00	谷本 安	谷本 安	-	谷本 安	木村 五郎
			藤井 誠	木村 五郎	-	藤井 誠	-
			石賀 充典	石賀 充典	藤原 義朗	-	-
	再診	13:30~17:00	-	-	河田 典子	-	河田 典子
脳神経内科	初診・再診	8:45~12:00	田邊 康之	坂井 研一 (もの忘れ)	麓 直浩	原口 俊	逸見 祥司
	再診		-	-	-	-	井原 雄悦
消化器内科	初診・再診	8:45~12:00	-	-	平野 淳	平野 淳	-
	初診・再診	8:45~12:00	藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高
皮膚科	再診	第1・3月曜 15:30~16:30	藤原 倫高 (受付16:15まで)	-	-	-	-
		第2・4・5月曜 15:30~17:00	藤原 倫高 (受付16:30まで)	-	-	-	-
	再診(予約)	16:00~17:00	-	-	-	藤原 倫高	-
耳鼻咽喉科	初診・再診	8:45~12:00	-	-	-	-	村井 綾/清水 藍子
整形外科	初診・再診	8:45~12:00	藤田 寧子	藤田 寧子	-	藤田 寧子	藤田 寧子 (再診予約のみ)
リハビリテーション科 (摂食嚥下専門)	初診・再診	13:00~14:00	-	谷本 安 (予約のみ)	-	-	-
小児科	初診・再診	8:45~12:00	遠藤 文香	産賀 温恵	井上 美智子	吉永 治美	水内 秀次
小児神経科	初診(予約) 再診	8:45~12:00	吉永 治美	吉永 治美	-	井上 美智子	遠藤 文香
		13:30~15:30	-	吉永 治美	遠藤 文香 (14:00~)	吉永 治美	-
	再診	15:30~17:00	井上 美智子 (2・4・5週)	-	遠藤 文香 (~16:00)	井上 美智子	遠藤 文香
アレルギー 外来	初診(内科)	10:00~11:00	-	-	谷本 安・坂野 純子	-	-
	再診(小児科)	8:45~12:00	-	産賀 温恵	-	-	-
	再診(皮膚科)		藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高	藤原 倫高
	初診(予約)・再診 (内科)	14:00~16:00	谷本 安・木村 五郎	-	-	-	-
	初診(予約)(小児科)	14:30~15:30	-	-	-	-	-
	再診(小児科)	15:30~17:00	水内 秀次	産賀 温恵 (奇数週15:30~)/ 林 知子(偶数週)	-	水内 秀次	水内 秀次・ 産賀 温恵(16:00~)
再診(皮膚科)	15:30~17:00	藤原 倫高	-	-	藤原 倫高 (16:00~)	-	
喘息外来	再診	14:00~16:00	-	-	-	谷本 安・坂野 純子	-
呼吸不全専門 外来	初診・再診	10:00~11:00	-	-	-	-	-
		13:30~15:00	-	-	-	河田 典子	-
睡眠時無呼吸 外来	初診	9:30~10:00	-	石賀 充典	-	-	-
	初診・再診	11:00~12:00	-	-	-	-	谷本 安
禁煙外来	初診・再診	13:30~16:00	-	-	-	藤井 誠	-
間質性肺炎外来	初診	10:00~11:00	-	-	-	-	谷本 安・坂野 純子
小児肥満外来	再診	8:45~12:00	水内 秀次 (~11:00)	-	-	-	水内 秀次
	初診(予約)	14:30~15:30	-	-	-	-	-
	再診	15:30~17:00	水内 秀次	-	-	水内 秀次	水内 秀次
歯科	初診・再診	8:45~12:00	小野 瀬里奈	山路 公造	-	大原 直子	吉山 昌宏
	再診	13:30~17:00					
検診 予防接種	乳幼児健診	14:00~14:30	-	担当医	-	-	-
	予防接種	14:30~15:00	-	担当医	-	-	-
		14:30~15:30	-	-	-	-	-

紹介状をお持ちの方は、事前に **病診連携室** で予約を行ってください。  
(予約無しで当日に紹介状をご持参される場合、お待ちいただくことがあります)  
初診(予約)を受診の方は、事前に **病診連携室** で予約を行ってください。

**病診連携室**  
086-482-3031



## 独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066  
電話 (086) 482-1121 (代表)  
FAX (086) 482-3883  
病診連携室 FAX (086) 482-3051

休日・時間外に FAX を送られる場合は事前に  
代表電話へご連絡ください。

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

